

平成 20 年 8 月 15 日発行

しのはらの風 20-4号

小淵沢町篠原区情報紙
発行人; 区長 松井 皎
編集; 藤代 富美男

<開拓祭と敬老の集いをみんなで盛り上げよう>

9月15日(月祝日)に開拓祭と敬老の集いが行われます。「しのはらの風20-1」では9月14日予定となっていたが他の行事との重複を避けて変更しました)

<開拓祭>は昭和20年9月15日を開拓入植した記念日として「こぶちさわ昔はなし」で紹介したような厳しい自然を相手に、一言では語れないような苦労を重ねて現在の篠原の基を築いた歴史をしのびます。開拓の歴史を少しでも知れば篠原に住んでいる意味も少し味わい深くなると思います。

<お祭り>は同じ苦労を味わった仲間が集い開拓祭を祝うために厳しい財政事情の中から資金を出し合って、一年に一日だけみんなで楽しもうということから始められたものです。新しく区民になった人も一緒に輪に入って楽しみましょう。今年は最近変わってきたお祭りを元の形に戻してやってみようということにしています。

<敬老の集い>は国の祝日として定められていますが、篠原でも当初の敬老の日が開拓祭と同じ日だったこともあって同日開催として実施してきています。65歳以上の方を対象に公民館にご招待して軽いお食事と余興で一日お楽しみいただきます。お祭りと一緒にになりますのでお孫さんが担ぐ子ども神輿も楽しめます。

「篠原の祭り」だ!!

<今年のお祭り>は今実行委員会を立ち上げて計画を練っていますが、おおよその流れは以下のようになりそうです。

10時	開拓祭神事	篠原神社にて
11時頃	子ども神輿渡御開始	篠原神社から
11時半頃	敬老の集い開始	篠原公民館にて
11時頃から	屋台始まり	篠原公民館前にて
3時半頃	敬老の集い・屋台終了	

<とにかく一度は覗いてみてね!>

＜お祭りに関してⅡ＞

- 1、 子供クラブでお祭りのポスターを作って張ります。出来るだけ多くの人に参加してもらいたいので子供たちのユニークなポスターを作ってお店にお願いしたり電信柱に張ります。
- 2、 屋台は「焼きソバ」「焼き鳥」「焼きイカ」それに「トムヤンクン」や「綿あめ」も検討しています。さらにくじ引きもあって楽しさ倍増です。
- 3、 昨年までは「お祭りだというので公民館まで行ってみたけど座るところも無いし、何となく居場所がなくて嫌だった。」という人も来てください。公民館の外にテントを張って気楽に座って楽しめるようにします。
- 4、 飲み物もたくさん用意してあります。

＜新規加入区民を紹介します＞

前号ご紹介以降に新たに加入された区民の皆さんを紹介します。（敬称略）

組	お名前	区別	組	お名前	区別	組	お名前	区別
1組	竹内 嘉孝	一般	4組	秋元 博	一般	2組	小田切力男	別荘
2組	中嶋 浩	一般	2組	鈴木 政成	別荘	4組	斉藤 隆	別荘
2組	北 重樹	一般	2組	東 英子	別荘	4組	節丸 作子	別荘

以上9名の皆さんが新たに加入されました。皆さんよろしくお願ひします。

＜防災訓練を実施します＞

8月31日（日）に防災訓練を実施します。防災無線からのサイレンと放送により、皆さんは家族の安否を確認して揃って避難場所（公民館前のゲートボール場）に集まってください。その時に近所にお年寄りや体の不自由な方がいましたら声をかけてみてください。特に最近では地震が多いので訓練には真剣に取り組みましょう。

＜資源ゴミについて＞

前号で資源ゴミの出し方について皆さんにお願いをしました。先日（8月9日）に確認に行きましたら回収ボックスの半分ほどがダンボール、新聞雑誌等で埋まっていた。徹底することはなかなか時間のかかるものだと改めて思いましたが、「しのはらの風」を見なかったのかあるいは見ても忘れてうっかり出してしまったのか、はたまた当日出せないことがあって早めに出してしまったのか等いろいろな原因が考えられます。中には出した人が特定できるものもありました。今回は直接お話しすることはしませんが、度重なるようですとご注意を申し上げなければならないと思います。皆さん是非ご協力を願ひします。繰り返します。

＜資源ゴミは＞

毎月第3土曜日の午前9時から11時までの間にごみステーションに持参してください。
それ以外の日や時間をご遠慮ください。

<長寿者クラブゲートボール大会その後>

前号でご紹介しました長寿者クラブ連合会の市のゲートボール大会が8月5日に長坂スポーツセンターで行われました。我が篠原チームは検討しました。結果はどうだったのかって？そんな野暮なことは聞くものではありません。頑張ったのです。夢と希望は気宇壮大、全国大会出場だったのですから。（注；筆者が勝手に書いたものです）それでいいではないですか。選手の皆さんお疲れ様でした。ところで会長さんから長寿者クラブ入会の募集の依頼がありました。入会資格は男女を問わず 65 歳以上の区民です。1,000 円の年会費が必要です。お申し込みは近所に居る会員か会長の高岡さん（36-5035）に連絡してください。お待ちしております。

<区民調査のためのアンケートにご協力を>

区では災害時の援助対応や敬老の集いの対象者を把握するために家庭調査のアンケートを実施します。区や組の役員が直接訪問してお尋ねしますのでご協力をお願いします。ご回答いただいた資料は厳重に保管し、上記の目的以外には使いません。勿論口外しないよう関係者には徹底します。

<壁時計の寄付をありがとうございました>

前号で公民館の会議室の壁時計が壊れて区民の皆さんに寄付のお願いをいたしました。が、早速3組の保坂仁二さんと5組の芝川又和さんから寄付の申し出がありました。両方ともまるくて大きな壁時計です。そのうちの一つは電波時計で温・湿度計が付いている最新式のものです。会議室と和室にそれぞれ取り付けました。お二方のご好意に深く感謝します。ありがとうございました。

<景観（環境）はみんなで創る財産です>

「こぶちさわ昔はなし」から転載します。今回はお隣の女取区に入植された堀内勇さんの文章です。辛い時代を越えて今があるのだと思います。長い文章ですので途中で省略させていただきました。全文ご希望の方は藤代（36-3483）まで。

【開 拓 者】

女取 堀内 勇

戦争ほど悲惨なものは無い。何拾年、何百年の歳月と莫大な資金や、人力をつぎ込んで築き上げた公共施設や文化的遺産も一瞬のうちに破壊されてしまう。平和な時には一人の人間を殺しても、殺人鬼などと、悪魔のように非難され嫌われる人間も、いざ戦争となれば、立派な武勇伝として話され聞かされる。何千人、何万人を殺したものは英雄である。戦争はこんな矛盾を平気で生み出している。一番弱いところへ一番不幸のシワがよせられる。一番弱い敗戦国の民衆ほど哀れな者はない。戦後の開拓者がその一例で

ある。大東亜戦争で、家も職業も失い、食料も無く、開拓地に入植し、生きんが為、食わんが為、子供を育てんが為に、朝は朝星、夜は夜星、暗がりから暗がりまで働いて働いて働きぬいて、夜中に見る夢まで開墾の夢、それでも命をつなぐが精いっぱい。子ども等は篠原分校で勉強をした。府警の勤労奉仕ばかり、待ってはられない。男の先生が、手車のカシ棒を握れば、子供は綱を引き、車の後を押し、運動場に砂場を造る砂を、小荒間の川からはこんで来た。現在のような整備された道ではない。石だらけのがたがた道、大変な労働である。女の先生も、子供と力を合わせ運動場の端にモロコシを作り子供の空腹をしのぐたしにした。

先生も生徒も良く勉強をした。良く働いたと私は思う。蛍の光窓の雪、文読む月日重ねつゝと学問を志す者の口に歌われた。大学者も川原の荒地を耕して菜種を蒔き、収穫した。菜種の油で勉強をした二宮尊徳先生も、逆境を人生の試練として逞しく生きぬいた戸尊い姿である。苦学力闘のあの小学生たちは立派な社会人に成長しているであろう。

開拓地に入植した私も例外では無かった。開拓地に入植したのは長女が二歳ぐらいの時であった。仮寝の宿とはいいいながら、茅の屋根、茅の壁、松の落ち葉をかき集めて土間に敷き、ムシロを敷いて其の上で生活をした。この娘をかしらに四人の子供を育てたが、吹雪の夜は手ぬぐいでほほかむりをして、親子抱き合って寝むったが朝目を覚まして見ると布団の上にも手ぬぐいの上にも茅のすき間から吹込んだ雪が白く積もっていた。雨が降れば雨がもり、寝れぬ夜をすごしたことが何年も続いた。

既存農家でさえ物資不足に悩んだ時代です。腕一本、スネ一本、裸一貫の開拓者の貧困は筆舌に尽くしがたいものであった。

開拓地は、やせていた。鍬や鎌をふるい耕して、馬鈴薯を蒔いても種いもより小さいもしか取れず、ソバを蒔いても刈り取るほどは実もならず、ザルを持って実だけをもいであるくしまつ。

生活におわれて、子供の世話などしているひまが無い。畑のクロ（まわり）へ置きっぱなし、娘は泣きっぱなし。夕方薄暗くなってから子供の居た所を探して見たが見あたらない。家に帰ったのかと思い、家に帰って見たが、家にもいない。驚いてまた畑に飛んで行き、昼間遊んでいた付近を探してみると、近くの松の木の下に、三っつばかり松かさを抱いたまま寝むっていた。家につれて帰り、あかりの下で見ると、涙とはなたれのあとに土がつき、ブヨに食われたのか蟻に食われたのか爪でかいたのか顔にも手足にも傷後に血がにじんでいた。

娘は父からも母からも優しい言葉も貰えず、遊ぶ友もなく、おもちゃもなく、泣きつかれて近くに茂っている松の木の下から松かさをひろい、おもちゃにし、松の梢を渡る風の音を慰めの声と聞きながら寝たのであろう。私は娘を抱いて男泣きにないた。現代の子供で、こんな育てられかたをした子供はおそらくいないだろう。この汗と涙が報いられたのは、二十年も過ぎてからである。(以下略)

